（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（熊本県立小川工業高等）学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価表

１ 学校教育目標

本校すべての教育活動を通して、校訓「誠実・剛健・礼節」を基盤に、知・徳・体の調和に留意し、心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。また、「ものづくりを通した人づくり」を実践しながら、社会の変化に的確に対応し、自立して将来を切り拓く主体性のある生徒を育成する。さらに、各科の特色を活かした取組を行いながら、地域社会から信頼される学校づくりを目指す。

２ 本年度の重点目標

（１）専門高校として、ものづくりを通した人づくり教育を推進する。
（２）確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。
（３）心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。
（４）地域に信頼され、特色ある学校づくりを推進する。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	教育目標	教育重点目標の周知と達成度	・職員の共通理解を図り、生徒全員が重点目標を理解し具体的行動がとれる。 ・アンケート周知の割合が生徒保護者とも９０％以上	・職員の意思統一と生徒への周知、指導の徹底 ・保護者会や学校情報の発信による担任と保護者の連携強化	B	・生徒アンケート結果は昨年度より５ポイント減少。校長から機会ある度に目指す資質、３点を示した点は分かりやすかったのではないか。 ・学校ＨＰの更新は毎日のように行い、週当りのアクセス数も平均3,600件と多かった。ＰＲ紙の作成等も含め、積極的に学校情報を発信できた。
	特色ある学校づくり	工業教育の推進	・ものづくり教育の充実 ・資格取得の推進 ・専門性を活かした進路実績	・ものづくり地域支援プロジェクトの推進 ・資格検定試験指導方法の改善 ・情報提供と面談の強化	A	・ものづくり地域支援プロジェクトは昨年度に引き続き推進できた。エコデンカーの全国優勝、技能五輪全国大会出場等専門分野での実績も顕著であった。資格検定の取得については更なる改善が必要。
		部活動の充実	・部活動加入率９０％以上 ・九州大会、全国大会への出場	・活動方針の策定と活動計画の提示 ・部活動指導者、リーダー研修の実施	B	・部活動加入率は87.7%と目標には届かなかったが、弓道・陸上・レスリング部等の国体での入賞をはじめ、工業技術分野での活躍等の実績を上げた。指導者・リーダー研修は実施できなかった。
		入学志願者定員確保	・入学志願者が定員以上	・学校説明会、体験入学の充実 ・ＨＰ等、学校情報の発信 ・魅力化アンケートの実施分析	C	・前期選抜の出願者数が１７０人と前年度を下回り、定員割れが心配される。体験入学や中学校における学校説明会などの内容を再検討し、新しい情報発信手段の開発などの手立てが必要である。
	学校改革の推進	校務改革の推進	・校務の効率的推進 ・「生徒と向き合う時間」の確保	・「働き方改革」の推進 ・報連相の徹底と分掌間の連携強化 ・職員会議、職員研修等の効率的運営	B	・業務の削減は余り進んでいないが、職員の意識高揚により超過勤務は昨年度比で大幅に減少した。(49.5h→41.3h) ・職員会議・研修は年間計画どおりに実施し、効率化に努めた。
		授業改善の推進	・授業評価で「授業に満足している」が８８％以上	・ＩＣＴの活用、ＡＬ型授業の実施 ・公開授業、研究授業の実施	B	・昨年度に１年教室、本年度は２年教室にプロジェクタが常設され、授業での活用が非常にやりやすくなった。 ・授業評価のアンケートでは授業の満足度が全体平均で87.5％であった。

学力向上	基礎学力向上	基礎学力の向上	・授業評価アンケートにおける考査前宅習時間の増加	・習熟度別授業の充実 ・考査前学習会の実施	B	・数学、英語で習熟度別授業を展開し、一定の成果は見られる。 ・昨年度１学期総欠点科目数215、２学期111に対し、本年度１学期137、２学期103と大幅に減少している。 ・考査ごとに考査前学習会を計画しているが、学習会での学習に満足して宅習をしない生徒が多い。考査前学習時間が昨年度2.02時間に対し、本年度は1.83時間と減少した。
	自学力の育成	学習意欲向上と自宅学習の定着	・宅習時間１時間の確保	・各教科による宿題や課題の工夫	C	・宿題や自主学習用の課題を与えるなどの取組をした教科、学科があったが、指示した時だけの学習で終わり、学習習慣の定着とは言えない。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	・年２回の公開授業、研究授業週間の実施 ・年２回の授業評価アンケートの実施	・公開授業、研究授業週間における教員相互の授業参観の充実 ・授業評価を活用した授業改善 ・授業改善研修会等への参加	B	・公開授業、研究授業週間を実施し、教員相互での授業参観を行った。１人２回の授業参観を呼びかけたが、平均すると１人1.29回の参加に留まった。 ・生徒の評価に関して、先進校視察を行い、全職員にその内容、手法を復講し、新教育課程実施に向けて評価方法の検討をお願いしている。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	進路意識向上と進路目標の明確化	・マナー教育を柱に豊かな人間性の育成と、主体的な進路選択ができる能力を養う。	・インターンシップ、工場見学の実施 ・進路便りの発行 ・講話、面談による職業観と進路意識の確立	A	・大方計画どおりに実施することができた。最も大きな取組の一つであるインターンシップでは、２年部が中心となり充実した取組となった。
	目標進路の達成	就職、公務員指導の充実	・進路内定率１００％ ・県内定着率の向上 ・早期離職の防止	・面接指導と試験対策による就職、進学内定率１００％の実現 ・熊本しごとコーディネーターと連携した進路指導の充実 ・面談のための環境整備	A	・学校紹介の就職は早い時期に全員合格を果たすことができた。県内、県外の就職比率はほぼ半数ずつでありバランスの取れた実績であるといえる。公務員については、自衛隊以外にも３名が合格することができ、極めて良好な結果であった。
		進学指導の充実	・第１志望校合格へ向けた学力の向上 ・合格率１００％	・定期的な模試の実施及び個人面談の実施 ・進学説明会やオープンキャンパスへの積極的な参加	A	・昨年度は進学希望者の一人一人に対する細やかな指導を反省点として挙げていたが、今年度は、よく行き届いていた。
生徒指導	規範意識	ルール・マナーを守る態度の育成	・問題行動の未然防止とともに指導の充実に努め、全職員で生徒指導を実施する。 ・ＳＮＳ等での情報モラルの向上を図る。	・生徒指導部通信や安心メールによる重点指導事項の周知 ・学年集会、学科集会による指導の徹底 ・特別指導の充実（関係部署との連携）と継続的な指導 ・情報モラル教育講習会の実施	B	・今年度特別指導は８件１４名（１月現在）と昨年度の２２件４１名から大幅に減少した。殆どの生徒は落ち着いた生活を送っている。生徒部通信等の発行や学年・学科集会も定期的に実施し、指導の重点項目についての共通理解を図ることができた。 ・ＳＮＳへの投稿が社会問題化しているために、警察から講師を招聘し、情報モラル教育講習会を実施した。
	基本的生活習	基本的生活習慣の	・挨拶を徹底させ、遅刻を昨年	・日頃からの挨拶、服装指導の徹底、毎		・生徒指導部、有志の職員で毎朝の登校指導を実施し、頭髪・

	慣	確立	度よりも減少させる。頭髪服装指導における一次合格者数９０％以上を目標とする。	朝の登校指導の実施 ・指導期日連絡の徹底 ・学年集会や科集会の実施	B	服装の指導や挨拶などの基本的生活習慣の確立が図られた。頭髪服装指導の一次合格者はクラスによって差があり、９０％には到達できなかった。
	交通安全	交通安全意識の高揚	・交通事故をなくす。 ・交通違反をなくす。 ・二重ロック率100％	・交通安全講話の実施 ・原付通学状況の不定期調査 ・原付通学生集会の定期実施 ・交通委員活動の充実（二重ロック点検等）	A	・バイク通学生（２４名）の交通違反は０件で、重大な交通事故も発生しなかった。通学状況の情報を集めて、バイク通学生集会や全校生徒対象にした交通安全講話を実施したことで交通安全意識の高揚が図られた。自転車の二重ロック点検も１００％になるまで指導を行った。
	自主性、社会性の育成	生徒会活動の活性化	・生徒会行事充実のための企画や運営 ・委員会活動の活性化 ・ボランティア活動への積極的な取組	・計画的な企画立案や運営と生徒会役員の自主性の涵養 ・各種委員会やボランティア活動の奨励と周知	B	・生徒会役員と係職員を中心に、充実した運営が図られ、自主的・積極的に活動する様子が見受けられた。ボランティア活動も委員会を中心に積極的に募集し実施することができた。さらに多くの生徒がボランティア活動に参加する取組が必要である。
人権教育の推進	人権教育の計画的推進	＜生徒対象＞ 事前・事後学習と関連させたＬＨＲ等での学習の深化	年間指導計画による確実なＬＨＲの実施 １年：身の回りの差別 ２年：差別の現実 ３年：就職差別と人間解放	・学年会におけるＬＨＲに向けた資料作成および事前学習会の実施	B	・全学年で、インターネットを利用した人権侵害について３回、同和教育について１回、更に３年生は就職差別について１回のＬＨＲを行い、人権意識の啓発を年間を通して行ってきた。
		＜職員対象＞ 人権教育に関する研修を通した意識の高揚	・人権教育実践委員会定例会の実施 ・校内職員研修の年２回以上実施、校外研修へ年１回以上参加	・校内職員研修会の実施 ・地区や県の人権教育研究大会への参加	A	・４月の新転任者学習会に、１３名、宇城学人研に１７名、校外研修に延べ３８名の職員が参加し、人権教育の向上につながった。
	命を大切にする心の育成	命を大切にする心を育む指導の推進	・関係機関と連携して講演会等を年３回以上実施・各教科において、命の大切さについて生徒に考えさせる教材を取り扱う。	・教科、学年、生徒指導部等が連携して、計画的に取り組む。 ・関係機関との連携 ・各教科の・指導内容の検証と情報の共有	B	・６月の心の絆を深めるＬＨＲ、１１月の人権教育講演会を中心に、集会・ＬＨＲ・授業等で、年間を通して命を大切にする心の育成を行った。
いじめの防止等	未然防止	啓発活動の推進	・いじめを許さない環境を整え、いじめが発生しない雰囲気を醸成する。 ・言語環境を整える。	・いじめについて考えるＬＨＲを実施 ・いじめ防止の行動目標の設定 ・学校生活の様々な場面においていじめ防止の取組を実践 ・相手を思いやる言葉遣い等言語環境の整備	B	・「心の絆を深める」と「インターネットによる人権侵害防止」の２回の啓発ＬＨＲを実施し、いじめが発生しにくい雰囲気づくりを図った。いじめをなくすためのスローガン「伝えようその一言で変わる未来」「マイナスの言葉を言いません書きません許しません」を策定し、生徒の言葉遣いの変化等、いじめを発生させないように務める様子が見られた。
	早期発見	いじめ発見の取組の推進	・年間３回以上、アンケート調査を実施する。 ・担任による面	・学期に１回アンケートを実施 ・通報アプリの周知 ・学級担任、教科担	A	・毎学期「心のアンケート」や面談週間を実施し、いじめを見逃さない雰囲気作りを図った。いじめ通報サイト（スクールサ

			談を随時実施し、実態把握に努める。	任、部活動顧問等による情報の共有		イン）を全生徒に周知して、生徒のサインを何時でもキャッチできるように努めた。
	発生した場合の対応	いじめの実態把握	・いじめの実態把握を迅速に行う。	・委員会を中心に、学年、学科、各部が連携する。	A	・事案発生時に直ちに委員会を開催し、実態把握と情報共有を行うことができた。
		被害者へ対応	・被害者の心のケア	・スクールカウンセラー等と連携した心のケア	B	・いじめの被害者には、スクールカウンセラーと連携し、心のケアを行った。
		加害者及び周囲の生徒への対応	・加害者及び周囲の生徒に対して必要な指導と心のケアを速やかに行う。	・いじめ問題対策委員会が中心となって、被害者の思いを理解させる。	B	・いじめの加害者には、いじめ問題対策委員会で指導内容を検討し、外部有識者と連携して指導にあたった。現在は自分を省みて落ち着いた生活ができている。
	再発防止	再発防止のための取組	・取組について検証を学期ごとに実施	・委員会や関係部署での情報交換と取組の検証	A	・いじめ問題対策委員会を中心に各部で再発防止に向けた情報交換と指導を行った。その結果、把握したいじめは全て収束している。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	開かれた学校づくり	地域連携及び地域貢献	・地域の小・中学校及び支援学校との連携 ・地域行事、ボランティア活動等への積極的な参加	・ものづくり教室等の実施 ・近隣小学校での本の読み聞かせ ・特別支援学校への教材教具の提供及び技術支援 ・工業各科の連携による地域イベント参加や作品展示 ・ものづくり地域支援プロジェクトの推進	A	・小学校での読み聞かせは順調に実施できた。担当の生徒も児童の反応を見て達成感を得ている。 ・特別支援学校へ向けた教具の製作、贈呈を行った。 ・地域の祭り等へ参加し、本校の活動報告や作品展示・実演を行いＰＲできた。 ・昨年に引き続きものづくり・地域支援プロジェクトを実施し、地域の要望に応えた。 ・地域の子ども達にむけた体験教室を実施した。
		防災型コミュニティ・スクール	・活動計画の作成と体制づくり	・年２回の学校運営協議会の開催 ・地域と連携した防災計画の作成 ・防災マニュアルの作成	B	・宇城市との避難所協定に係る覚書についても、関係校と連携して年度末には締結できる見込みである。 ・防災マニュアルについては年度初めに今年度の各担当の役割を確認した。また、今年度版を作成した。
		家庭との連携	・ＰＴＡ総会、学校行事等の保護者の参加率８５％以上	・保護者への学校情報の提供 ・ＰＴＡ役員と連携し保護者の参加を促す。	A	・ＰＴＡ総会の出席率は85.9%と達成することができた。 ・学校の情報提供も安心メールを活用することで概ねできた。各学校行事に多くの保護者の協力をいただいた。
		学校の公開と情報の発信	・学校ＨＰの充実 ・安心メールの活用 ・公開授業、研究授業の推進	・学校ＨＰ充実のため職員研修実施 ・年間２回の公開授業、研究授業週間の充実と保護者、地域への周知	A	・職員研修を実施し、ＨＰの更新はほぼ毎日のように多くの職員により行われた。 ・公開授業は予定通り実施したが、外部からの参加者は少なかった。 ・様々な連絡で安心メールを活用し、登録者も増加した。
特別支援教育	特別支援教育への理解と推進	教職員の専門性の向上	・特別支援教育に関する職員の意識高揚と授業等での実践	・研修会等の職員への周知 ・研修会への積極的な参加 ・校内職員研修の実施	A	・研修会の案内は、県内開催のものを中心に概ねできた。 ・研修会への参加はまだ十分とはいえない状況が続いた。 ・外部講師を招いて研修を行い、意識向上につながった。
		生徒の学校生活の	・多様な生徒への早期対応及び合	・生徒理解研修の実施		・時期によって項目を調整して生徒理解研修を行い、良い情報

		保障	理的配慮の提供 ・情報の共有	・教育相談の充実 ・生活面や進路保障に向けた適切な指導 ・健康教育部と学年及び学科との連携強化	B	共有が図れた。 ・ＳＣやＳＳＷを有効に活用できた。 ・進路保障や日常生活に関して、困り感を持った生徒への具体的な配慮は、まだ不十分である。
教育環境整備及び安全	環境教育の徹底	環境美化への意識付け	・ゴミ分別、掃除の徹底 ・５Ｓ活動の実践	・外部機関との連携 ・委員会活動の活性化 ・トイレ掃除マニュアルの見直し ・ゴミ分別の徹底、校内美化活動	A	・生徒美化委員会と連携した結果、ゴミ分別の徹底については概ね達成できた。 ・屋外トイレについて、長期休暇や休業日の環境維持に部活動生が協力してくれた。 ・美化活動への取組の活性化をさらに推進したい。
		省エネや省資源に対する理解	・電気使用量昨年度比３％減、水道使用量２％減	・節電、節水の呼びかけによる省エネ ・省資源の意識付け ・グリーンカーテンの推進	A	・生徒委員会を通して節電、節水を働きかけた結果、意識が向上した。 ・各職員室にグリーンカーテンを設置することができた。
	図書館教育の充実	図書館の利用促進	・生徒一人あたりの年間貸出数１３冊以上 ・朝読書の徹底 ・蔵書の整備と充実	・広報活動や図書委員会活動の充実 ・学習に資する図書の選定 ・蔵書の電算化と整備	B	・貸出冊数は、12月時点で平均8.2冊(昨年度、同時期10.4冊)なので、目標達成は難しい状況。平成24年度以来、冊数を伸ばしてきたが今年度は、減少に転じる。アンケートの結果についても生徒・職員のポイントは、昨年度を下回った。ただ、今年度は読書感想文、体験記のコンクールで優秀な成績を修め、深い読み方ができる生徒も育っている。 ・蔵書については、古い資料の廃棄(約500冊)、授業支援のための資料購入(約150冊)を行った。
	安全管理の徹底	危機管理意識	・校内における事故ゼロ ・隔月の安全点検実施 ・自己管理意識を高める	・危機意識向上の職員研修実施 ・安全点検による環境改善 ・生徒保健委員会による広報活動の強化	B	・安全管理における職員研修を計画できなかった。 ・安全点検を実施し環境を整えることで、事故を未然に防止することができた。 ・生徒保健委員会での広報活動がほとんどできておらず次年度の課題である。
		危機管理マニュアル	・危機管理マニュアルの作成	・緊急事態発生時の訓練の実施 ・危機管理マニュアルの周知徹底	B	・避難訓練を実施することができたが、実施する時期や事前指導に時間の確保など課題も見つかった。 ・年度始めに危機管理マニュアルの確認を実施し、周知することができた。
		健康管理	・救急体制の確立 ・健康診断事後措置の徹底 ・健康観察の充実 ・熱中症対策	・熱中症対策に関する職員研修、救急法講習会の実施 ・家庭への連絡の徹底	A	・職員、生徒への適切な情報の提供ができ、各自の意識の向上が計れた。 ・体育大会練習時と当日の熱中症対策について、地球温暖化による環境の変化に対応するため、さらなる対策を練る必要が出てきた。

４ 学校関係者評価

本年度の学校の教育活動全般について、１５項目のアンケート調査を行ったところ、平均が３．５９（４点満点）と概ね高い評価をいただいた。特に、部活動や地域行事への参加では満点の高い評価を、逆に、環境整備では３．０の低い評価であった。

部活動や専門分野の大会等での生徒の実績では学校の活気を感じる。土木科の県や地元建設業界との連携による専門分野への就職率の向上、先進技術の紹介等によるイメージアップ、学校全体で生徒が落ち着いてきており、特別指導件数が大幅に減少している点は好評であった。反面、保護者とも連携したＳＮＳ等の問題への対応、前述のような学校の魅力を更に広く発信して志願者の増加につなげること等が課題として述べられた。

５ 総合評価

（１）全体について

自己評価においては９の大項目に対して３７の小項目を設け評価を行った。結果は、Ａ評価が１６、Ｂ評価が１９、Ｃ評価が２、Ｄ評価が０であった。昨年度と比較して、Ａ評価が４項増、Ｃ評価が１項増となった。生徒指導の交通安全で、校外指導やバイク通学生集会等を適時に行った結果、交通違反や大きな事故等の発生もなかったためＡ評価とした。入学志願者定数確保の項目では、昨年以上に様々な取組を行い、情報発信や連携活動等も行ってきたが、結果的には志願者が昨年度より大きく減少したため、評価をＣに下げた。

生徒・保護者アンケートで「本校に入学して・させて良かった」の回答は昨年度比の微増で、それぞれ81%・95%である。この値が100%に近づくよう取り組みたい。

（２）重点目標について

①専門高校として、ものづくりを通した人づくり教育を推進する。

昨年度から取り組んでいる「ものづくり地域支援プロジェクト」は、各学科の特性を生かし継続して実施できた。ボランティアも含め、地域との連携の面からも学校関係者からも高い評価を得られた。エコデンカーの全国大会優勝や、技能五輪全国大会（配管競技）への出場、建築科のRakuten IT School NEXTの取組等の顕著な実績もあげることができた。

②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。

授業力向上の取組は、研究授業や学習評価に係る職員研修等も行ったが、成果としては大きな変化は見られない。生徒の自学習慣に関しては、生徒・保護者・職員のアンケート結果からも評価が低い。いずれも継続した取組が必要である。進路実現に関しては良好であった。特に公務員の合格実績も上げることができた。

③心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。

運動部や工業技術関係部活動では、全国レベルで活躍する生徒も見られた。多くの生徒の自信につながったと思うが、全校生徒に波及するよう、部活動加入率の向上も含め更に取り組んでいきたい。言語環境を整えることを目標に掲げ、生徒や職員の意識高揚を図ることはできたが、一部でＳＮＳ等に関わる問題等、生徒間の些細なトラブルは絶えない。いじめの未然防止も含め、生徒の実践的な行動につなげていきたい。

④地域に信頼され、特色ある学校づくりを推進する。

地域連携活動やボランティア活動等、多くの生徒が積極的に参加することができた。生徒の活動や活躍の様子を学校ＨＰ等で積極的に発信しアクセス数も増加したが、保護者アンケートでは、学校行事の充実、学校関係者からは更なる広報活動の充実等が課題としてあげられている。取組内容を厳選しながら、様々な機会を活用し、引き続き情報発信に努め、志願者の増加につなげたい。

６ 次年度への課題・改善方策

昨年度に引き続き自己評価でＣ評価とした「自学力の育成」は重点課題と考える。生徒に明確な目標を持たせ、達成感を感じさせながら、学習習慣の確立につなげたい。短期目標として、資格・検定試験のスケジュールを明確に示し、各学科の枠を超えた指導体制の確立、指導方法の改善を行い、合格実績の向上も図りたい。長期目標としては、個人面談の充実を図り、早期の高い進路目標の確立、その実現に向けて学習内容を明確に示し取り組ませたい。

もう１つのＣ評価となった「入学志願者の確保」も重要な課題である。今年度の土木科の地域と連携したキャリア教育やイメージアップの取組は一定の成果が見られた。各学科ともその専門性を高め、それぞれの魅力を更に発信していきたい。学校全体としては、積極的な中学校への働きかけや連携活動を推進したい。普段の学校外での生徒の姿も地域からの信頼につながるものである。挨拶の励行、規範意識の確立、ボランティア活動の推進等、更に力を入れて取り組みたい。